

国際広報メディア専攻

平成 27 年度
前 期

日本語論述

13:30～15:30

解答上の注意

1. 試験開始の合図があるまで、この問題紙を開いてはならない。
2. 問題紙は、この紙を含めて 2 枚ある。
3. 解答用紙 (25 字×40 行=1000 字) は、2 枚ある。
4. 解答用紙は、2 枚とも必ず提出すること。
5. 受験番号は、すべての解答用紙の指定された箇所に必ず記入すること。
6. 選択した問題番号は、すべての解答用紙の指定された箇所に必ず記入すること。
7. 解答は、すべて解答用紙の指定された欄に記入すること。
8. 下書き用紙は別途配布されるが、問題紙の余白を下書きに使用してもさしつかえない。
9. 問題紙および下書き用紙は持ち帰ること。

以下の問題 1～4 のうちから 1 題を選択し、1600～2000 字の日本語（横書き）で解答しなさい。

【問題 1】

先ごろ、「人間の感情を理解するロボット」が発表され、注目を集めた。見かけや挙動では、人間と全く区別のつかないロボットの完成も、そう遠くないだろう。このように人間と機械の境界が曖昧になると、社会や文化にどのような変化が起こると考えられるか。ロボットと人間が入り交じって生活している世界を想定し、そこで起こる具体的な変化の例を挙げながら、あなたの考えを述べなさい。

【問題 2】

近年、日本国内における「多文化共生社会」に向けた議論が行われている。このような議論が行われる背景を踏まえた上で、あなたの考える「多文化共生社会」について具体的に述べなさい。そして、あなたの考える「多文化共生社会」の実現に向けて言語教育とはどのような役割を担うべきか、具体的に述べなさい。

【問題 3】

Web 2.0 時代に入り、インターネット上のクチコミ情報サイトに掲載された情報が人々の消費行動に影響するようになった。こうした状況における問題および対策を、具体的な例を挙げながら述べなさい。

【問題 4】

インターネットに代表されるニューメディアの台頭により、旧メディアの代表とされる新聞の存続について悲観的な意見が表明されることがある。

新聞の危機は、すべての西側諸国が抱える経済問題の克服で乗り越えられるものではないのは予想できる。…… 新聞編集は、新聞というジャンルが存続し続けるのであれば、その製品同様革新的にならねばならない。市場の可能性は間違いなく存在するが縮小するだろう。……

（オットー・ヤレン 2006 年の文章から）

これについて、楽観的な立場、悲観的な立場のどちらをとるかを前提にして、そこに関与する要因に触れながら、あなたの考えるところを述べなさい。